

広島市子どもの読書活動推進計画（第二次計画）の推進状況（平成24年度）

計画の目的

「本と出会い・楽しみ・豊かに生きる」

子どもが本と出会い、読書の楽しさにふれながら、ことばの力※や「教養・価値観・感性」等を身に付け、自ら考え、判断し、豊かに生きていくために、あらゆる機会とあらゆる場所において、子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境の整備を推進することを目的とする。

※ことばの力とは…子どもの「学習」や「生活」全ての基盤となるもので、自分の気持ちや考えを伝え合う力や情報を正しく理解し物事を的確に判断できる思考力等を指します。

基本方針

- 1 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進
- 2 子どもの読書活動推進のための施設、設備その他の諸条件の整備・充実
- 3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

.....

1 目標

図書館、学校等で「本を読むきっかけの提供」や「本を読むことの習慣化」に取り組み、平成27年度には、年12冊（1か月に1冊）以上の本を読む子どもの割合を次のとおりにするよう目指す。

目標		目標値 (目標年度： 平成27年度)	前計画の実績 (平成22年度)	推進状況	
				平成23年度	平成24年度
1か月に1冊以上読書する子どもの割合	小学校5年生	93.8%	91.1%	91.2%	91.2%
	中学校2年生	87.3%	80.9%	82.4%	84.6%

※「基礎・基本」定着状況調査（広島県教育委員会実施）による数値
 ※「第56回学校読書調査」（平成22年5月実施）の全国平均を目標値とする。

【説明】

- 平成24年度の広島市立学校における「1か月に1冊以上本を読む児童生徒の割合」は、小学校5年生では前年度と変化がなかったが、中学校2年生では前年度より2.2ポイント増加した。
- 第二次計画策定後、中学校2年生の数値は上昇傾向にある一方で、小学校5年生の数値はほぼ変化しておらず、不読傾向の子どもへの対策が必要である。
- 各学校が、こうした子どもの課題（例：子どもの読書への関心、子どもの読む能力、家庭との連携等）を明らかにし、その課題に応じた取組を展開することができるよう、具体的な情報提供を行うとともに、引き続き重点施策をより一層推進し、子どもが本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりを推進していく必要がある。

2 重点施策

(1) 図書館等における重点施策

① 重点項目 「発達段階に応じた読書活動のための情報提供の充実」

目 標 (目標年度： 平成27年度)	前計画の実績 (平成22年度)	推進状況	
		平成23年度	平成24年度
発達段階別図書リストの作成・配付	●広報紙・リストなどで、新刊書やテーマに沿った図書を紹介	●0～3歳向けの絵本リストの作成(隔年発行)・配布 ●小・中学生向けの夏休みの読書におすすめの本を紹介するリストの作成・配布	●幼児～中学生向けの良書目録の作成・配布(隔年) ●0～3歳向けの絵本リストの配布 ●小・中学生向けの夏休みの読書におすすめの本を紹介するリストの作成・配布

【説明】

- こども図書館で幼児から中学生向けの良書目録(※1)を作成し、保育園・幼稚園・学校・公民館等に配布した。また、各保健センターが実施する「こんにちは赤ちゃん事業(※3)」における家庭訪問時等に、前年度に引き続いて、0～3歳向けの絵本リスト(※2)を配付した。
さらに、夏休みの読書におすすめの本を小・中学生に紹介したリスト(※4)等を発行して学校等へ配布するとともに、広島市立図書館ホームページにも掲載した。
- こうした取組は、家庭での読書活動の大切さへの理解を深める役割を果たすものであり、今後も、発達段階別図書リスト等の保育園・幼稚園・学校への配布等を行い、発達段階に応じた読書活動のための情報提供に積極的に取り組む必要がある。

※1 目録名：「ほんはともだち‘12」

※2 リスト名：「おひざにだっここのえほん～家族で楽しむ乳幼児向けの絵本～」

※3 こんにちは赤ちゃん事業：生後4か月までの乳児がいる家庭を民生委員・児童委員等が訪問し、子育ての不安や悩みを聞くとともに子育てに関する情報提供を行う事業

※4 リスト名：「よう!あそぼう!!」

② 重点項目 「図書館での読み聞かせボランティアのステップアップのための研修会の充実」

目 標 (目標年度： 平成27年度)	前計画の実績 (平成22年度)	推進状況	
		平成23年度	平成24年度
経験者を対象としたステップアップ研修をこども図書館で年に2講座開催	●こども図書館で年に1講座開催(1講座5回)	●経験者を対象としたステップアップ研修をこども図書館で開催 1講座(計6回) 参加者延べ264人	●経験者を対象としたステップアップ研修をこども図書館で開催 1講座(計5回) 参加者延べ365人

【説明】

- 平成24年度は、こども図書館において、読み聞かせボランティアの経験者を対象としたステップアップ研修（1講座5日間）を開催した。同講座は、「昔ばなしと幼年文学」というテーマのもと、子どもが絵本をひとり読みできるまでの橋渡し時期の読書活動の推進につながる内容で実施し、参加者延べ人数は前年度より38.3%増となった。
- こうした取組は、読み聞かせボランティアが選書のノウハウを習得する貴重な機会となった。今後とも、研修会の充実を図るなど子どもの読書活動を推進する人材の活動支援を積極的に行っていく必要がある。

③ 重点項目 「各保健センターでの絵本の読み聞かせの実施の充実」

目 標 (目標年度： 平成27年度)	前計画の実績 (平成22年度)	推 進 状 況	
		平成23年度	平成24年度
4 か月児健康相談において毎回絵本の読み聞かせを実施	●4 か月児健康相談における絵本の読み聞かせの実施年132回	●4 か月児健康相談において絵本の読み聞かせを実施 220回(4 か月児健康相談実施回数年310回)	●4 か月児健康相談において毎回絵本の読み聞かせを実施 310回(4 か月児健康相談実施回数年310回)

【説明】

- 平成24年度は、各保健センターにおいて、4 か月児健康相談のすべてにおいて、絵本の紹介や絵本の読み聞かせを実施し、前年度の実施率（約7割）を大きく上回った。
- こうした取組により、子どもが絵本や物語にふれる機会を提供するとともに、保護者に対し、読み聞かせ等の大切さや意義について普及啓発の機会の提供につながったことから、今後も引き続き、同様の取組を推進し、家庭における読書活動の習慣化を推進していく必要がある。

(参考) 絵本の読み聞かせに関するアンケート〔平成24年度 こども未来局実施〕(※)
3歳以下の子どもを持つ保護者のうち子どもに絵本の読み聞かせをしている人の割合
94.6%

読み聞かせをした感想（複数回答）

「子どもが楽しそうだった」と回答した人の割合	64.1%
「子どもが絵本好きになった」と回答した人の割合	43.5%
「自分自身も楽しかった」と回答した人の割合	32.6%
「ゆったりとした時間が持てた」と回答した人の割合	25.0%

※ Kids☆めるまが(12歳以下の子どもを持つ保護者等があらかじめ登録した電子メールアドレスに、県・市が子育てに関する情報等の提供を行うもの。簡単なアンケート調査を行うこともできる。)を活用して実施。

実 施 期 間：平成24年10月1日～10月14日

対 象・送 信 件 数：3歳以下の子どもを持つ保護者 約1,700人

回 答 数：92件

(2) 学校における重点施策

① 重点項目 「読書活動の全体計画・年間指導計画の見直し」

目 標 (目標年度： 平成27年度)	前計画の実績 (平成22年度)	推 進 状 況	
		平成23年度	平成24年度
全ての小・中・高等学校で毎年見直す。	●全ての小・中・高等学校で作成している。	●小学校：新たな計画の作成について指導 ●中学校：現計画を引き続き活用し、平成24年度に新たな計画を作成するよう指導 ●高等学校：現計画を引き続き活用し、新たな計画の作成に向けた準備を進めるよう指導	●小学校 全体計画 95% (135/142校) 年間指導計画 96% (137/142校) ●中学校 全体計画 89% (57/64校) 年間指導計画 86% (55/64校) ●高等学校 現計画を引き続き活用し、平成25年度に新たな計画を作成するよう指導

【説明】

- 平成20年3月に小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領(※)の改訂が告示され、小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から新学習指導要領に基づいた教育課程が全面実施となったことから、小・中学校校長会や広島市教育研究会等において、読書活動の全体計画・年間指導計画の見直し(作成)についての説明を行った。その結果、全体計画の見直し(作成)については、小学校では95%、中学校では89%の学校において実施することができた。また、年間指導計画の見直し(作成)については、小学校では、96%、中学校では86%の学校において実施することができた。
- また、高等学校は、平成21年3月告示の学習指導要領が平成25年度から年次進行で実施(平成27年4月から全学年で実施)されることから、平成24年度は現計画を引き続き活用しながら、新たな計画の作成に向けた準備を進めた。
- 今後は、計画の見直し(作成)を実施していない学校に対し、教育委員会から指導を行うとともに、実施済の学校についても、学校や児童・生徒の実態に応じた計画となるよう、今後も継続して計画の見直しを行うよう働きかける必要がある。

※ この学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを重視しており、各教科等を通じて言語活動の充実を図ることとし、言語に関する能力の育成に必要な読書活動を充実することが定められている。

② 重点項目 「小・中学校の学校図書館図書標準冊数の達成」

目 標 (目標年度： 平成27年度)	前計画の実績 (平成22年度)	推 進 状 況	
		平成23年度	平成24年度
全ての小・中学校で標準冊数を維持する。	図書整備率 ●小学校 111.6% ●中学校 111.1%	図書整備率 ●小学校 110.6% ●中学校 112.2%	図書整備率 ●小学校 112.1% ●中学校 113.4%

【説明】

- 平成24年度においても前年度と同様に、適切な図書の更新を行いつつ図書整備を図った結果、全小・中学校（新設校(小学校2校、中学校1校)を除く）の図書館では、図書標準冊数を達成している。平成24年度図書整備率は、前年度と比較すると小学校で1.5ポイント、中学校で1.2ポイント増であった。
- 今後は、新設校の学校図書館図書整備を推進するとともに、引き続き、全学校図書館において、適切な図書の更新を行いつつ、図書標準冊数を維持していく必要がある。

(参考) 広島市立学校図書館の図書整備状況の推移

年度	区分	標準冊数 A	保有冊数 B	過不足冊数 B-A	整備率 B/A
平成22年度	小学校(141校)	1,329,240冊	1,484,029冊	154,789冊	111.6%
	中学校(64校)	752,160冊	835,954冊	83,794冊	111.1%
平成23年度	小学校(142校)	1,355,320冊	1,499,531冊	144,211冊	110.6%
	中学校(64校)	753,600冊	845,745冊	92,145冊	112.2%
平成24年度	小学校(142校)	1,348,040冊	1,511,815冊	163,775冊	112.1%
	中学校(64校)	755,040冊	856,237冊	101,197冊	113.4%

※標準冊数は5月1日現在、保有冊数は翌年の3月31日現在

※平成24年度における1校当たり標準冊数は、小学校9,493冊、中学校11,798冊

③ 重点項目 「小・中学校での学校図書館ボランティアの確保」

目標 (目標年度: 平成27年度)	前計画の実績 (平成22年度)	推進状況	
		平成23年度	平成24年度
学校図書館の運営に必要なボランティアの人数を各学校で引き続き確保する。	学校図書館ボランティアの人数 ●小学校 137校 1,989人 ●中学校 52校 785人	学校図書館ボランティアの人数 ●小学校 133校 1,979人 ●中学校 53校 416人	学校図書館ボランティアの人数 ●小学校 136校 1,968人 ●中学校 48校 342人

【説明】

- 平成24年度の学校図書館の運営に携わっているボランティアは、前年度と比較すると小学校が3校増(2.3%)11人減(△0.6%)、中学校が5校減(△9.4%)64人減(△17.8%)となっており、平成23年度以降減少傾向にある。
- 中学校では、小学校に比べて、読み聞かせをする機会が少ないことや仕事を持つ保護者が多いことなどから、ボランティアを要請することが難しい現状がある。
- これまでも、小・中学校校長会や広島市教育研究会等で、各学校に必要なボランティアの人数を確保するよう働きかけを行っているところであるが、学校図書館の運営を充実させるためには、ボランティアの確保が欠かせないことから、今後も継続して積極的に働きかける必要がある。

3 平成24年度における各方策の主な取組状況

(1) **基本方針1** 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

- こども未来局で絵本の読み聞かせに関するパネルを作成し、各保健センターにおける乳幼児健康診査の会場や常設オープンスペース等で絵本と一緒に展示を行うことにより、家庭での読書活動の大切さに対する理解を深める取組を推進した。
[1-(1) 保護者等への学習機会や情報提供の充実]
- 自動車図書館「ともはと号」巡回時に、一部の巡回ポイントでおはなし会を実施し、本と出合う環境づくりを推進した。
[1-(1) 保護者等への学習機会や情報提供の充実]
- こども図書館で小学生向け図書館利用案内を作成し、読書への関心を高める取組を推進した。なお、平成25年7月に、小学校1年生へ当利用案内を配布した。
[2-(2) 小・中学校及び高等学校の児童生徒への読書支援]
- 小学校・中学校校長会において、調べ学習コーナーや学校支援図書セットに関する情報提供を行い、学校における調べ学習の支援を推進した。この結果、学校図書支援セットの貸出申込数は、平成24年度の7月末時点で10セットであったのに対し、平成25年度同時期で既に29セットあり、利用促進につながっている。
[2-(3) 調べ学習の支援]
- 平成24年10月に、広島市とイオン株式会社との包括提携協定を受けて、イオンモール広島祇園店及びイオン宇品店でボランティア登録者による読み聞かせを実施するとともに、ボランティア登録者の活動の場の提供を行った。
[2-(4) 読み聞かせボランティアの研修及び活動支援]

(2) **基本方針2** 子どもの読書活動推進のための施設、設備その他の諸条件の整備・充実

- 中央図書館で来館が困難な子ども向けのカセットブックやマルチメディアデイジー(※)図書等を多く購入し、所蔵数の大幅な増加を図った。また、そのリストを貸出登録者に送付し、郵送貸出を推進した。
[1-(3) 図書館の利用に配慮が必要な子どものための読書環境と図書等の充実]

※ マルチメディアデイジー図書：パソコンを利用し、文字・音声・画像を同時に再生でき、読みの早さや画面上のレイアウト(文字の大きさ・色・背景色など)の変更ができる新しいメディアの図書。利用者一人ひとりが自分の好みやペースに合わせた読書ができる。
- 公民館図書室では、赤ちゃん絵本コーナーがなかった5公民館について、新たにコーナーを設置し、図書室の充実を図った。また、図書利用が多い4公民館で児童書を更新し、身近な図書館としての環境づくりを推進した。
[2-(1) 公民館図書室等の図書の実践]
- 平成24年9月に新築移転した広島特別支援学校では、図書室中央のスロープの西側は高等部、東側は小中学部というように学部別に図書を配置したり、書棚

の色を変えて分類したりするなど、障害の状態等に応じて利用しやすい工夫を行った。また、自動車図書館「ともはと号」の巡回を、移転にあわせて開始し、おはなし会や読書貯金通帳の配布を行うなど、障害のある児童生徒の読書活動の支援を推進した。 [3-(4) 特別支援学校における選書や環境の充実]

- こども図書館で司書教諭や学校図書館ボランティアを対象に学校図書館支援講座を開催し、図書館と学校の連携強化、及び、学校図書館ボランティアの育成支援を推進した。 [4-(2) 図書館と学校の連携・協力]

(3) **基本方針3** 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

- 広報紙「ひろしま市民と市政」（平成25年1月15日号）に、特集「より便利に、より面白く 図書館活用術」を掲載し、読書活動に関する理解と関心を深める取組を推進した。（参考資料3 参照）

[1-(1)教育ひろしま、ホームページ等による啓発・広報等の推進]